千葉県特別支援学校高等部ボッチャ大会

競技規則（平成２７年度版）

本ボッチャ競技規則は、国際脳性麻痺スポーツ・レクリエーション協会（ＣＰ－ＩＳＲＡ）ボッチャ競技規則（千葉ボッチャ協会訳）を千葉県特別支援学校スポーツ大会ボッチャ競技用に一部修正し、これを適用する。

【専門用語解説】

- ・ジャックボール　：ターゲットとする白いボール（１個）
- ・カラーボール　：赤、青のチームが所有する各色６個のボール
- ・種　　目　：ボッチャ団体戦
- ・コ　ー　ト　：境界線で囲まれたプレーする区域（投球ボックスを含む）
- ・ジャックボール無効ゾーン　：投球ボックスとその前方のＶ字ラインの間にあるゾーンで、ジャックボール投球時、無効ゾーン内で静止した場合は、審判によって取り除かれ、投球権利が相手チームに移る。ただし、カラーボールにおいては有効な得点対象ゾーンである。
- ・ク　ロ　ス　：コート中央にある＋字マーク。第３セットの試合開始時やジャックボールが押し出される等してアウトになった場合、タイブレイクの際にジャックボールがこのマークの位置に置かれる。
- ・試　　合　：２チームで競い合い、定められたセット数を競技する。
- ・終　　了　：２チーム全てのボール（１３球）の投球が終了することでセットの終了とし、定められたセット数を終了することで、試合の終了とする。
- ・補　助　具　：選手の投球を補助するための用具の総称をいう。

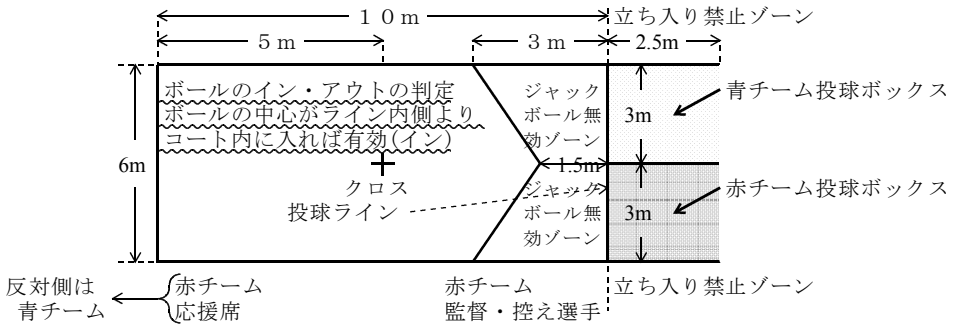
【１．備品と設備】

１－１　備品

- ・ボッチャセット　：赤６個、青６個、白１個の合計１３個のボール。
  ※マイボール制（各校でボールを用意する→同一の１セット）
- ・測　量　用　具　：ボール間の距離を計測するメジャー等。
- ・スコアボード　：各チームの得点を表示する。
- ・計　時　用　具　：公式の時計で競技進行時間を計測する。
  ストップウォッチ等で各チームの持ち時間を計測する。
- ・赤／青の表示板　：投球権を各チームに表示する両面が色分けされた板。

１－２　コート

- ・表　　面　：体育館の床状の平らでなめらかな場所
- ・大　き　さ　：１２．５ｍ×６ｍ（下図参照）
- ・ラ　イ　ン　：認識の容易な白色の粘着テープ等を用い、テープの幅は４～５㎝とする。



【２．競技者の参加資格】

- ・千葉県内の特別支援学校中学部および高等部に在籍する生徒

【３．チーム組織】

３－１　登録チーム数

- ・各校最大３チームまでエントリー可とする。

３－２　チーム組織

- ・監　　督　：引率職員より監督１名を置く。
- ・キャプテン　：選手よりキャプテン１名を選出する。
- ・介　助　者　：コート内介助１名、ボックス内介助２名までとする。**→注.【７．８】要参照**
- ・選　　手　：カップ戦への登録は最大６名まで。リーグ戦への登録は制限無しとする。１セットの出場人数はカップ戦では３名。リーグ戦では６名までとする。選手の交代はカップ戦は３回まで，リーグ戦は自由とする。従って，１試合に出場できる人数はカップ戦では６名，リーグ戦では**無制限**となる。

	カップ戦	リーグ戦
登　録	６名まで	**制限無し**
１セット 出場可能数	３名	６名まで
交代枠	３回まで	自由

【４．監督】

４－１　監督の責務

- ・試合前に主審に対して、№カード何番の選手がその試合に出場するか、また、先発の３名は何番かを告げる。また、コート内介助者については誰がどの選手で行うか明確に伝える。
- ・セット間の選手交替は、インーアウトを№カードで明確に主審に告げ、許可次第選手を交替させる。
- ・試合終了後、主審の結果表示に対して、異存が無ければ監督欄にサインする。

４－２　監督の権限

- ・投球権のあるプレイに関しては、チームに有利となる指示・言葉かけの一切を選手に行うことはできない。
- ・投球権のない状況ではチーム内の選手に対して作戦を伝えたり、指示を行うことができる。
- ・審判への抗議は、監督のみが行うことができる。しかし、審判の判定には必ず従わなければならない。

【５．キャプテン】

５－１　先後攻の決定

- ・試合開始前に主審の指示に従い、相手チームのキャプテンと先後攻を決定するジャンケンを行う。決定の方法はお互いが理解できればジャンケンでなくても良い。

５－２　投球に際しての指示

- ・選手の投球に対して方向や距離等の具体的な指示を行うことができる。
- ・補助具を使用する選手の投球に関して、補助具の方向を変えたり、ボックス内介助者に方向や距離の指示をしたりすることができる。
- ・自らが試合に出場していない場合も、投球ボックス内に入り、投球や補助具の方向に関する指示を行うことができる。

【６．選手】

- ・１試合につき３～６名の選手が参加し、１セット１人あたり２球の投球を行う。
- ・異なる２つのチームに所属して試合に出場することはできない。
- ・欠席等の理由により、試合参加が困難な場合（選手数が３名を割る等）、全体の競技開始時間までに審判長の承認を得ることで、選手名簿の変更を行うことができる。
- ・一人２球投げるのが原則なので選手が３人未満の場合は試合に参加できない。
  （試合をしても不戦敗となる。）

【７．コート内介助】

７－１　介助者の許可

・コート内介助者は監督を通じ、試合前に主審の許可を受けておくこと。また、コート内に入る際は主審に対して「入ります」等の申告をし許可を得て入る。

・指示、または投球終了後は速やかにコート外へ出る。

７－２　介助者の動作による介助

・コート内において、言葉かけや指さし、ジャックボールの後ろに立つ等の動作により、選手にジャックボールの位置を伝えることができる。

（言葉としては、「選手の名前」や「ここだよ」等の位置の指示のみとする）

７－３　特別な道具による介助

・選手の実態に応じて、指示棒や矢印、看板等を利用してジャックボールの位置を伝える手だてとすることができる。

７－４　コート内介助における禁止事項等

・投球の方向や強弱を指示すること。戦術上有利になる位置を示して「ここに投げて」等の言葉かけをしたり、「もっと強く投げて」等の言葉かけをしたりすることも同様に禁止とし、あくまでジャックボールの位置の伝達のみに徹する。

・コート内の全てのものに触れてはならない。また、触れないよう留意する。誤って触れた場合は、主審の手によりできる限りもとの位置に復元する。

【８．ボックス内介助】

８－１　円滑な進行のための支援

・試合のスムーズな進行のため、選手交替やボールの受け渡し等の行為を行うことができる。

８－２　中立性

・競技者及びキャプテンの指示に従うことに専念し、方向を指示するような言葉かけや作戦の指示、合図等、チームに有利になる行為の一切を行ってはならない。

８－３　身体の静止等の支援

・身体の一部を介助者が抑えていないと投球することが困難な選手の場合、介助者は選手の腰等を抑えて選手が投げやすいようにコートに向かって正面を向かせるまでの介助を行うことができる。ただし、肩から腕に関しては触れることはできない。また、キャプテンの指示による方向転換も行うことはできない。

・身体の一部を抑えながら、故意にジャックボールの方向に向けようとすること等、チームに有利になる行為の一切を行ってはならない。

８－４　補助具に関する支援

・補助具の方向を変える等の介助者は、セットの開始からコートに背を向けていなければならず、自チームの全投球が終了するまで試合内容を見ることはできない。

・介助者は、競技者の直接の指示及びキャプテンの指示のみに従って補助具の方向の調整を行う。

・補助具は一投ごとに正面を向けたり、左右に振ったりし（リセット）、再度、調整をする。

【９．投球ボックス】（【１．競技コート参照】）

９－１　投球ボックスの指定

・投球は投球ボックスから行われなければならず､コートに向かって左側が先攻で赤ボールを、コートに向かって右側が後攻で青ボールを使用する。

・出場する３名の選手は投球ボックス内にいなければならないが、車椅子や補助具の関係で難しい場合は、後方で待機することは可。

９－２　ボックス内入場権

・出場選手３名と、出場していない場合のキャプテン、ボックス内介助者の最大６名である。

９－３　ボックスに関するライン

・投球の際は、ボックス前部のライン（投球ライン）を踏んではならない。車椅子も同様とし、前方にある車輪がラインを踏んではならない。

・ボックスを分ける中央ラインは、踏んではならず、ライン上空間も相手側にはみ出してはならない。

・サイドラインは投球者や使用する補助具が踏んだり、出たりしてはならない。待機の際は、できる限り、踏んだり、外にはみ出たりすることがないよう留意する。

【１０．競技の進行】

１０－１　先後攻の決定

・キャプテンのジャンケン等で先後攻の選択権を与えられる側を決定し、先後攻を決定する。投球ボックスに入る。赤チームが先攻となり、ジャックボールの投球権が与えられる。投球は全て主審の指示による。

１０－２　ジャックボールの投球

・先攻チームで１番目に投球する選手がジャックボールを投球する。

・ジャックボールがコート内に静止した場合は、同一選手が自ボールを投球する。

１０－３　ジャックボール無効の場合

・ジャックボールが無効ゾーンでの静止やアウトとなった場合、そのセットのジャックボール投球権は相手チームに移る。

１０－４　ジャックボールの投球者

・同一、または、他セットに関わらず、同チームの同競技者がジャックボールを２度投球することはできない。ただし、ジャックボールの無効が続く等して、チーム内で２順目はその限りではない。

１０－５　各チームの投球

・ジャックボールを投球した選手が、自チームのボールを投球した後、相手チームが自ボールを投球する。（投球は身体のどの部分を使っても可。蹴っても有効）

・両チームのボールが１球ずつコートに入った時点で、主審はどちらがジャックボールに近いか判断し、次に投球権があるチームを決定し、投球を促す。

・投球権を与えられるチームは常にジャックボールから遠い方（劣勢）のチームで、劣性側のチームが優勢にならない限り、継続しての投球となる。（劣勢チームが投球を終了した場合は除く）

１０－６　各選手の投球数

・１セットの中で各選手は２球までの投球を行う。投球の機会は主審の指示に従い、投球の順はチーム内で決めておく、またはその場でキャプテン等が判断する。

（投げる順番は自由。１人が連続して投げても良い）

１０－７　セットの終了

・投球権が与えられたチーム（劣勢）が全ての投球を終了した場合、相手チームに投球権が移動し、相手チームにボールが残っている場合は、そのチームの全ての投球が終えることでセットの終了。相手チームも投球が終了していたら、その場でセット終了となる。

１０－８　２セット目以降について

・２セット目は後攻チームのジャックボールの投球となり、上記同様に試合が進行する。

・３セット目は、クロスポイントにジャックボールを置く。ジャックボールはジャンケンで勝ったチームのボールを置く。（マイボール制のため）

・ジャックボールの投球権の無効等による移動は、次のセットの本来のジャックボールの投球権の順番に関係しない。

【１１．得点と決勝】

１１－１　得点の計上と決勝

・得点はセットごとに計上し、得点板に記入される。最終的には、その試合の総セットでの合計得点が多い方が勝者となる。

１１－２　得点の数え方（優位の確認）

・そのセットの終了時点（両チームの投球終了）で、ジャックボールに一番近いボールが所属する方のチームが優勢（勝ち）と判断される。

１１－３　得点の数え方（実際の計上）

・劣勢（負け）側のチームのジャックボールに最も近いボールとジャックボールを結んだ距離を用い、ジャックボールを中心に、その距離を半径とした円を描くことで、その円内にある、優勢（勝ち）側のボールの数が得点となる。

・劣勢（負け）側のジャックボールに最も近いボールと同距離にある優勢（勝ち）側のボールは得点として計上しない。

・両チームボールがジャックボールより同距離にあり、それ以外、ジャックボールに近いボールがない場合は、両者とも得点として計上する。最も近い同距離同士のボールは何個でも、それぞれ両チームに得点として計上する。

【１２．タイブレイク】

１２－１　総得点が同点の場合は、タイブレイクにより勝敗を決する。
・タイブレイクの競技回数は最小回数（１球ずつで優劣が決定すれば、そこで終了）とする。

１２－２　代表選手の選出
・両チームは代表選手１名を選出し、主審に申し出る。

１２－３　ジャックボール
・ジャックボールは、主審により、クロスの位置に置かれる。

１２－４　先後攻の決定
・タイブレイクのみ、それまでの試合とは別に先後攻を決定する。代表者同士でジャンケン等で先後攻の選択権を与えられる側を決定する。

１２－５　投球ボックス
・先後攻に関わらず、投球するボールの色、投球するボックスは、試合時のままとする。

１２－６　投球と勝敗
・主審の指示により投球が行われ、ジャックボールに近いチームが勝者となる。
・両チームのボールが同距離の場合は、再度、別の代表を選出し、同様の手順で勝敗が決定するまで行う。また、タイブレイクの際の点数は、試合の総得点には加算されない。

【１３．試合方法】

１３－１　３０分制
・３セットで試合を行う。ジャックボールの投球権は、１セット目が赤（先攻）チーム、２セット目が青（後攻）チームが持ち、３セット目はクロスの位置に置かれ、ジャンケン等で先攻を決定する。

１３－２　時間制限
・１セットの各チームの持ち時間は、それぞれ５分であり、１セット中に持ち時間を消費したチームは、そのセット中の残りのボールの投球権を失う。
・消費時間の計測は、主審のコールから、その投球したボールが静止するまでの時間とし、そのチーム６球分の時間の合計が消費時間となる。途中、持ち時間を消費した場合、投球最中のボールは有効であるが、それ以降は投げられない。
・ジャックボール投球の所要時間は、各チームの持ち時間には含まれない。

【１４．選手の交替】

１４－１　出場選手
・１セットの出場人数は３名とし、セット中に選手を交替することはできない。

１４－２　交替の回数
・セット間で選手の交替ができる。１試合につき、延べ３回までとし、１人１人の交替を１回と数える。最大６名（先発選手が全員替わることで）までが出場可能。

１４－３　交替の申し出
・交替の申し出は、セット間に監督が主審に申し出る。№カードで、明確にインーアウトを主審に伝え、許可が得られ次第、交替の成立とする。

【１５．補助具】

１５－１　補助具の意義
・投球が難しい選手の意思が充分反映されるよう、創意・工夫すること。
・選手ができる動作を考慮し、過度な支援とならないよう留意すること。
・投球の際の補助具、目印等の補助具等は最小限で済むよう留意すること。

１５－２　補助具の設置範囲
・補助具の先端が投球ラインより前方に出ない（ラインも踏まない）ようにする。コートに設置していない状態（空中）も同様とする。
・投球の際、選手が投球ボックスの外に出ることは認めない。ただし、補助具の最後部が空中でボックス外に出ること（斜めに設置した場合等）は可。

１５－３　補助具のリセット
・補助具を使用する投球では、１回ごとに補助具を正面に向けたり、左右に振るなどして補助具の方向のリセットをしなければならない。リセットを行う者はボックス内介助者の補助具担当者とし、セット中のコートを見ずに行うこととする。

【１６．主審】

１６－１　試合の運営
・両チームに公平な立場に立ち、競技規則に則って試合を円滑に進める。

１６－２　計時等
・試合時間、セット数を明確に両チームに伝達し、開始時間・終了時間を記録用紙に記入する。

１６－３　計測
・ジャックボールの距離等、副審と協力して計測を行う。試合途中、明らかに優劣がつけがたい場合は、必ず計測を行い、遠近・距離を明確に周囲に伝達する。

１６－４　コール
・投球されたボールの優劣により、投球権があるチームを表示板を使い「色」でコールする。コールは１回のみとし、その１回が副審の計測するチーム持ち時間対象となる。明らかに気づいていない場合等は、再度コールする。

１６－５　記録
・ジャックボール投球者、１選手の投球数、セットの出場者、選手交替等について、記録用紙に控えておく。間違いや違反が確認されれば注意や修正の指示を行う。

１６－６　結果の確認
・試合終了後に両チームの監督に記録用紙の内容を確認させ、異存がなければ、監督欄にサインをさせる。両チームの監督のサインにより、以後、試合結果の訂正や抗議の受付はないものとする。

【１７．副審】

１７－１　計時（各チームの消費時間の計測）
・ストップウォッチ２個を使い、１個ずつで両チームの消費時間を計測する。計測の対象は、主審の「赤」「青」のコールから投球したボールが静止するまでとし、その累積をチームの消費時間とする。ジャックボールの投球所要時間は加算しない。ストップウォッチには「赤」「青」のテープが貼ってあるのでチームを混同せずに使い分けるよう留意する。
・両チームの残り時間のコールを行う。具体的には、「残り時間３分」、「残り時間１分」、「残り時間３０秒」「残り時間１０秒」「競技時間終了」となる。

１７－２　得点板の記入
・セットごとの各チームの得点を設置された得点板に記入していく。

１７－３　計測の支援
・主審と協力し、ボール間の距離等の計測を行う。

【１８．リーグ戦の順位決定】

１８－１　勝敗数
・順位決定は、同一リーグ内での勝敗数により、決定する。

１８－２　勝敗数同一の場合
・勝敗数が同一の場合は、総得点数で多い方が上位の順位となる。

１８－３　勝敗数、総得点同一の場合
・勝敗数、総得点が同一の場合は、総失点数の少ない方が上位の順位となる。

１８－４　勝敗数、総得点数、総失点数同一の場合
・直接対決が勝者の方が、上位の順位となる。
・タイブレークで勝者決定をするので、ここで順位決定ができる。

こんな時、どうなるの？
試合実践例 Ｑ＆Ａ集

Ｑ１：１セット目に赤チームがジャックボールを投球してアウトになり、青チームがジャックボールを投球し試合が進行しました。２セット目のジャックボール投球権はどちら？

Ａ：【１０－８】を参照。無効やアウトに関する投球権の移動は、**次のセットの本来のジャックボールの投球権に関係しません。従って２セット目は、青がジャックボールの投球権を持ちます。**

Ｑ２：主審のチームコール（赤・青）の前に投球してしまいました。どうなりますか？

Ａ：【１０－１】を参照。投球は全て主審の指示によるとありますから、コール前の投球は全て無効です。投球権のある、なしについても、状況判断だけであって、主審が「赤」・「青」のコールをしていなければ、明らかに投球権があるとは言い切れず、**この場合、全て没収球となります。**
主審は試合状況に影響がないよう速やかにボールを回収します。**投球してしまったチームの方はすみやかに主審に申告して下さい。**

Ｑ３：主審のコール後、両チームが投球してしまいました。どうなりますか？

Ａ：特に参照とする部分がありませんが、**コールされたチームとしては当然（偶然にせよ１個の投球であれば規定通り）、何ら不首尾はありません。有効球です。問題はコールされてない側のチームの投球であり、こちらは当然【１０－１】に則って没収球となります。**ただし、投球された２個のボールが干渉した場合、投球権がある側は再度投球を行います。

Ｑ４：コール後、同チームの２人の選手が同時にボールを投げてしまいました。どうなりますか？

Ａ：**ほぼ同時であれば、主審が素早く２つのボールを回収し、１人が再度、投球します。同時ではなく、時差があった場合は、後の方のボールをコール前の投球とみなし、没収球とします。**

※　Ｑ２～４については、ボックス内介助により、ある程度、未然に防げる内容かと思われます。全て共通する部分はコール前のコート内への投球は、主審の指示を得ていないということで没収球とします。ただし、Ｑ４については、同時であれば、没収球にしないようにしたいと思います。とは言え、ある程度、未然に防げるものについては、コールされるまでボールを持たせない等、していただければと思います。投球の権利よりも、試合の状況に影響があった場合、主審がもとの状態に復元しますが、完全復元は無理です。両チームが試合結果に納得できるよう、このような状況にならないような未然の防止策をしっかりとお願いします。

Ｑ５：補助具にボールをセットする際に、失敗してボールが床に落下してしまいました。

Ａ：**ボックス内の失敗であれば、特に問題はありません。しかし、下ではなく、コートに転がっていってしまったら、これは投球ボールとなります。**投球権がない状態（コール前）であれば、当然、没収球です。また、介助者が故意にやることはないと思いますが、主審の判断で明らかに故意とされた場合は、没収とし、投球無効、状況復元とします。

Ｑ６：投球したボールがジャックボール無効ゾーンに静止した時は？

Ａ：【専門用語解説】のジャックボール無効ゾーンを参照。**得点対象になります。**

Ｑ７：ジャックボールの投球後、その選手が赤ボールを投げたのですが、アウトとなってしまいました。次の青もアウトに・・・。この場合は？

Ａ：**投球権の推移に何ら変更はありません。そのまま、投球権は赤、青の順となり、それぞれ１個ずつコートに入り、優劣が生じるまで交互に投球を行います。**

Ｑ８：試合の経過の中で、両チームのジャックボールに一番近いボールが同距離ということがおこりました。次の投球権はどちらに？

Ａ：**この場合、追いついた側（後から同距離に持ち込んだチーム）が投球権を持ちます。**優劣が逆転し、劣勢になった側が投球をする権利を有する訳ですから、この状況は得点とは関係ありませんが、「時差」で考えると良いでしょう。後から同距離に持ち込んだチームは優勢にもなっていませんし、つまりは相手チームを劣勢にもしてないわけです。完全に逆転（相手を劣勢に）するまで投球権は相手に移りません。

Ｑ９：ジャックボールに対して、両チームのボールが等距離にあるように見える時、説明を審判に求められますか？

Ａ：**通常は投球権の表示でどちらが近いかはわかるはずです**が、状況によっては、作戦上、得点対象の状況を知りたくなる場合もあると思われます。特に主審側で一つ一つ状況や経過を説明はいたしません。各チームで判断してください。**ただし、わかりにくい状況では、作戦上の判断のために主審への質問も可です。進行に支障がない範囲で質問してください。**

Ｑ 10：監督や控えの選手、応援団はボックス内に入れませんか？

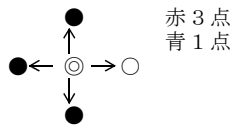
Ａ：【１－２】【９－２】を参照。監督がボックス内介助を兼ねる場合はありますが、入れる人と人数は制限があります。**あくまで対外的な試合であり、競技中に控え選手、応援団が競技場に入ることはできません。**応援団や控え選手の場所の規定がありますので、よろしくご協力ください。

Ｑ 11：立って投球できる選手が、ゲーム中に投球ボックスに椅子を持ち込めますか？

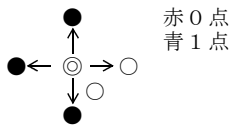
Ａ：**特に規定はありません。立っていなければならないという規定もありません。**車椅子で移動し立位で投球を行う、普段は立位でも椅子に座って投球を行う等、選手が自分の力で競技に参加できるよう、特に疲労等に関しての配慮は可能な限り行って下さい。必要があれば主審に相談してください。ただし、あまりおおげさにならないよう、また、自チームの投球に不便や混乱のないようお願いします。

【ボールの位置による、得点や投球順の決定例】　◎ジャック　○青　●赤

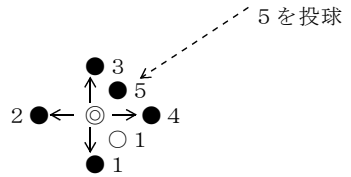
①同一距離の得点例（→は同距離）



②同一距離の得点例（→は同距離）



③同一距離時の投球順（→は同距離）



③図の流れ
青先行で、○１投球
↓
続いて赤、●１投球（○１より遠いので）
↓
続いて赤、●２投球（○１より遠いので）
続いて赤、●３投球（○１より遠いので）
続いて赤、●４投球（○１より遠いので）
続いて赤、●５投球（○１と同じ距離になった）
↓
次は、赤の投球です。なぜなら、
劣勢であった赤が青○１より近くはならず、
赤が優勢にはなっていないので優勢になるまで
（赤が近くなるまで）、赤の投球です。